

2010.3.1

**Contents**

情報設備の変遷と住宅

床に座る人、椅子に掛ける人

**連載**

キニナルマドリ  
office HABITA  
住まいは巣まい  
住まい文化の葉  
HABITAな風景  
住健住康  
Green Earth  
5th ROOM

住宅の中に今や、情報のための設備は欠かせなくなっている。新築を考えるときには、インターネット環境の整備など仕様の確認を行うことは必須である。しかし、これらの設備は特に変革も大きい。住宅の中における情報設備がどのように変わってきて、住宅本体にもどのような影響を及ぼしてきたか考えてみたい。そうすると、この変化の中に「200年住宅」へのコンセプトをかいだ見ることができる。

**情報ライフライン**

すでに15年の年月が過ぎたが、阪神淡路大震災の時にライフラインという言葉が使われた。この時にこれまでのライフラインである電気・水道・ガスに情報が加えられた。情報が遮断されることが、現実の害として考えられるようになってきたのだ。まさに現代の情報社会を象徴している。

しかし、こうした住宅の情報設備も余余曲折を経て浸透してきた。機器の性能によって住宅もさまざまな影響を受けながら、現代には必要不可欠な設備となった。その歴史をたどってみるといかに変化に翻弄されてきたかが分かる。

電話機の家庭への普及

情報機器の始まりは電話と言って良いだろう。電話機の普及の話は家庭に1台の時代から始まる。当時の住宅で言えば、いわゆる電話のアウトレットを付けるか付けないかで良かった。しかし、電話機が普及すると、新築住宅にはアウトレットが標準的に付くようになった。電気の配線に新しい配線が加わったのである。

電話のアウトレットを付ける場所は、家庭によって違う。テレビアニメ

の創世記にあった、サザエさんやドラえもんでは、玄関先にあった。電話も来客者のひとつであったのだろうか。またドラマの中でも階段に腰掛けながら電話をしているシーンもよく使われていた。

その後、この電話は、リビングに置かれるようになる。日頃からリビングやキッチンにいる家人が、玄関先まで出向くのは不自然を感じたのであろう。この時電話は家族の一員になつたようである。さらには新築で電話機の置き場所まで作るケースも決して少くはない。ここまで、機器の進化と住宅はあまり関係がない。

やがて親子電話ができると、ひとつの家で2カ所の電話が使えるようになる。ちょうど住宅の2階に部屋数が増えてゆく傾向とも重なり、アウトレットも1階と2階の2カ所に標準的に付くようになった。2階に付けられるのは最初はホールであったが、主寝室に付けられることも多い。

やがて子機を複数にする事が可能になると、各部屋でも使えるようになる。電話のアウトレットも各部屋に求められるようになった。新築の時の電話線は、部屋の中に見えることがないようにあらかじめ躯体内に配線される。着工前の詳細打ち合わせで、コンセントと同じように、電話のアウトレットも個々の位置を確認するようになった。

**情報設備の変遷と住宅**

*Weekly*  
**HABITA** 022

次に開発された電話は、格段の進歩となる。つまり、有線から無線へと進化したのである。しかも、その無線のパワーは予想外に強かった。親機が1階にあれば、後は無線で2階のどの部屋でも使うことができる。さらには家の中を移動しながらも電話ができる。この機器の出現によって、家の中に電話配線は必要なくなってしまった。電話の出始めの時と同じように、アウトレットは親機の場所にひとつあればよい。

親機にはさらに機能が追加される。ファックスをはじめとしてさまざまな機能が付くようになると、電話のア

ウトレットのそばには電源が必要になってくる。電話ひとつでも短い期間に大きな様変わりをし、少なからず住宅の工事にも影響を与えてきた。

**インターネットも同じ道をたどる**

電話はさらに進んで、今や携帯電話の時代である。しかも個人で1台持つのも普通だ。善し悪しの議論は別にしても、家族の食卓には各人の携帯電話が並んでいることもある。固定電話は今や、インターネットへの接続口となっている家庭も少なくないであろう。

しかも興味深いことにインターネット端子も、似たような普及のプロセスをたどる。一家に1本あれば良かったものが、HUB化して2本に、そして各部屋へとLAN端子を増やしていく。ただし電話のように通話というアナログ的な使い方とは違う。ユビキタス社会といわれるよう、情報が常時更新さ

れる社会では家電にもLANが接続されるようになる。これらの配線はあまりにも複雑であった。しかし、電話と同じように無線LANが普及するようになる。

住宅の中の配線工事は、まるで脈打つように膨張したり収縮したりしているのである。こうした進歩の早い設備機器は、時代とともに変わることが常なのである。

**変わりながら継がれてゆく家**

住宅をつくる時にはこのような長いスパンの目を持っておくことは大切である。そして耐用が短いものを変える時に、長く持たせるものを壊すようなつくりをしてはいけない。今話題の省エネルギー性能も、100年も経てば、変わっているかもしれない。新しい素材はすでに生まれつつある。また耐震性や耐火性も変わるに違いない。変わらずに残るのは構造体だけである。「200年住宅」と言うと、変わらずに残る家をイメージするかもしれないが、変わりながら継がれてゆくのが「200年住宅」のコンセプトに他ならない。

